

Food for all people

すべての人に、食べ物を。

ANNUAL
REPORT
2022

これからの展望・活動報告



SECOND
HARVEST
セカンドハーベスト ジャパン



23年以上前、私は自分たちのプログラムのために食品を集めるグループ連合の共同代表者となり、2年間、「フードバンク/フードバンクジャパン」という名前で活動しました。この2年間は私にとって、とても困難な時期でした。私は孤独で周りとも隔たりがあるように思い、そのため、しばしばフラストレーションを感じていました。しかし、その経験は、「すべての人に食べ物を」という考え方や、新しいことに挑戦する、他の人々と協力する等、後に私たちのコアバリューとなる、いくつかの種をまいてくれました。全ての困難な時期は、私たちの価値観を明確にし、私たちが何者であるか、そして人生における私たちのミッションを定義する良い機会になる可能性がある、私は考えます。

2002年に法人化した際、食品を収集して再配布するというシンプルなプロセスを導入しました。

サポーター、ボランティア、スタッフ、団体メンバーをはじめとする全てのステークホルダーの皆さんのおかげで、私たちは新しい形の公共資産であるフードセーフティネットを構築するというミッションとビジョンを持って進化してきました。私たちの野心的な目標は、私たち自身の組織と食品の収集とそれらを再配布するという、シンプルなプロセス以上のものを見据えてきたためにより大きなものになりました。これは、私たち全員が認めるべき揺るぎない成果です。

私は今でも、そしてこれからも、常に信じ続けます。誰もが十分な食品を手にすることができる、そして、誰もが気分良く、自分に誇りを持って、誰かと繋がっていると感じながら「いただきます」と言うことができる社会は、全ての人のためになると……。私たちは、常にこの目標に向かって努力を続けます。

Over 23 years ago I became a co-representative of a coalition of groups collecting food for their own programs. For two years we operated under the name: Food Bank / Food Bank Japan. Those were two challenging years and I often felt frustrated, alone, and disregarded. However, that experience sowed the seed of some of our core values such as, “Food for all people,” trying new things, and working with others. All hard times can be opportunities to clarify our values, define who we are, and our mission in life.

When we incorporated in 2002 we simply put in our application we were going to collect and deliver food. Thanks to a wide number of supporters, stakeholders, volunteers, staff, and the members we have evolved with a mission and vision to create a food safety-net: a new public asset. Our aspirational goal has increased because we have seen beyond our own organization and

simple process of collecting and delivering food. That is quite an accomplishment which we all should take a moment to acknowledge.

I still believe, and will always believe, we all benefit knowing each person has an opportunity to have enough food; has a reason to say, “itadakimasu.” It makes us feel good, proud, and connected with each other. May we always strive for this goal.



創業者 / Founder / CEO

Charles E. McJilton

マクジルトン・チャールズ

Second Harvest Japan By the Numbers 2022

数字で見るセカンドハーベスト・ジャパン

Our cost per serving

1食あたりの費用



= **61** JPY 円

1食 (=400g) を提供する為にかかる平均費用は61円 (2022年の2hjデータに基づく)。
Avg. cost per 400g meal using FY2022 data

Total number of equivalent meals

提供した合計食数 (換算数)



× **2,929,863** Meals* 食*

企業や個人の皆さまから寄贈された多くの食品。これを食数に換算すると、その数2,929,863食に相当します。
Thanks to the support of companies and individuals, we were able to deliver the equivalent of 2,929,863 servings. More than 2.9 million reasons to say arigatou.

※すべての寄贈品重量から、飲料、水を除き、1食に必要な量/400g (2hjデータ) から算出

*Total weight of donated food (minus water/beverages) ÷ 400g. avg. meal

Retail value of food delivered

配布した食品の小売価格

1,619,606,330 JPY 円



Volunteer hours

ボランティア活動時間



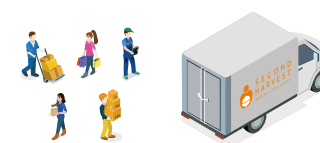
24,649 hours 時間

私たちの活動全てにおいて、ボランティアの方々にご協力いただいています。セカンドハーベスト・ジャパンでは1年間にこれだけの「時間の寄付」を頂戴しました。

It is incredible how many hours were donated to us in just one year. We are deeply grateful to our volunteers.

Volunteer drivers

ドライバーボランティア



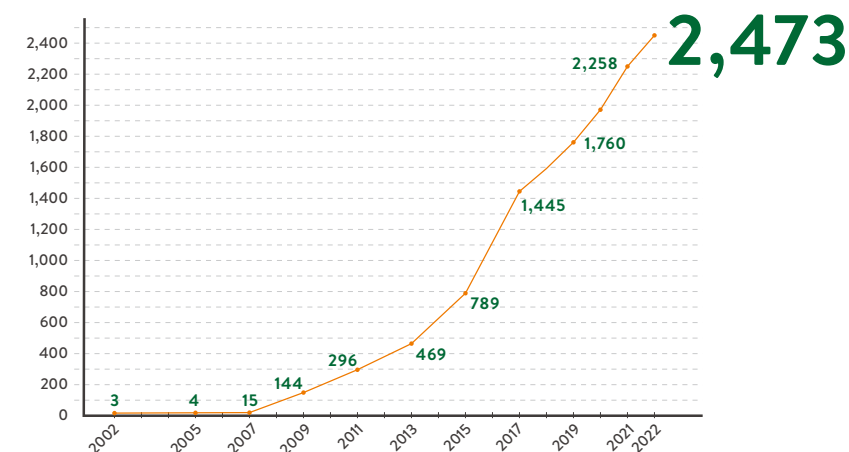
約 **4** Full-time staff 人分 (フルタイムスタッフ)

食品の引き取りや倉庫での管理、配送を担うドライバー・ドライバーアシスタント。このボランティアの活動時間は、フルタイムスタッフ約4人分に相当します。

Drivers are our first ambassadors. They donated time equivalent to four full-time staff. These volunteers play a key role in making sure donated food gets to the welfare agencies, nonprofits, and faith-based groups.

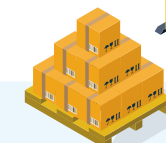
Number of companies that signed MOUs with us

食品を提供してくれる企業/団体数 (合意書数) の推移



私たちは食品を提供して下さる企業・団体と合意書 (寄贈品授受に関する契約) を締結しています。活動を開始した2002年当初はわずか3か所だった食品提供企業・団体は、2009年7月に100に、現在では2,400を超えるまで増えました。

In 2007 only 15 companies had signed a donor MOU. By the end of December 2022 this number exceeded 2,400. All through building trust one company at a time.



Core Programs 4つのプログラム

01 Harvest Central Kitchen ハーベストセントラルキッチン

ハーベストキッチンは寄贈された食品を調理し、生活が困窮している方々へ暖かい食事を提供する活動です。毎週土曜日に上野公園、隅田川、新宿、皇居周辺で配布する400~600個のお弁当を作っています。また、行政やNPOと連携しひとり親世帯や学習支援施設へのお弁当配布を行なっています。

Each Saturday, 400-600 bentos are made for distribution at the following locations: Ueno Park, Sumida River, Shinjuku, and Emperor's Palace vicinity.

02 Harvest Pantry ハーベストパントリー

個人世帯を対象に緊急食料支援を行う活動です。行政や社会福祉協議会、NPOなどの相談機関と連携し、様々な事情で食品が必要となった方々へ食品を提供しています。活動は食品を直接手渡す「marugohanパントリーピックアップ」と、食品の詰め合わせを発送する「パントリーパッケージ」があります。

We provide groceries (perishable and nonperishable food) through three different programs: marugohan (choice pantry), food boxes, and mobile pantry.

03 Food Bank フードバンク活動

フードバンク活動は、全てのプログラムの基盤です。食品企業等から、品質に問題がないにもかかわらず様々な理由で廃棄される食品を寄贈していただき、各種福祉施設、連携フードパントリーなどへ提供しています。中間支援を通じて、フードセーフティネット、フードライフラインの広域への拡充に努めています。

Food banking is our core activity. We collect food from a wide variety of sources and distribute it directly to those in need as well as the agencies that serve them. We continue our work to create a "food life-line" and "food safety-net" to make this work possible.

04 Advocacy & Development 政策提言と発展

フードセーフティネットを構築するため、フードバンク活動の普及と発展を推進しています。日本中を訪ね、地方でフードバンクを始める方々へ支援を行う他、フードバンク活動に関する研究調査や講演、シンポジウムの開催などを行います。

One of the ways we are creating a food safety-net is through promoting food bank development. Our work includes public speaking, holding symposiums, conducting research, and participating in study sessions.

Mid & Long-term Strategic Focus

私たちの5～10年戦略は、他のステークホルダーと協力して、人々が十分な食料を確保できるようにすることに重点を置いています。

This 5-10 year strategy focusses on working with others so people have enough food.

2021年2月から2022年8月まで18ヶ月を要した策定プロセスを通して、私たちは多くのことを学びました。

The 18-month strategic planning process deepened our understanding of many issues.

COLUMN 創設20周年にあたり、オープンハウスを開催しました。 20th anniversary open house event.



2022年12月7日(水)午後5時から7時の間、現在の活動を紹介、かつ、この20年を共に振り返る機会を設けるため、「オープンハウス」を開催しました。当日は、80名を超えるステークホルダーが参加され、marugohanでは、食品セットアップの様子を見ていただき、フードバンク部オフィスでは、団体の歴史を振り返る写真等を前に、スタッフと談笑される姿が多く見られました。Kid's Caféでは、寄贈主様の許可をいただいた上で、温かいお茶と寄贈食品の試食がふるまわれました。

The event was a time to look back at our 20-year history with those who have been supporting us. We saw many old friends stop by and congratulate us.

私たちは、皆さんとともに、誰もが食にアクセスできる
フードセーフティネットを創ります。

Working with others to create a food safety-net so everyone can eat.

中長期戦略の軸となる「ソーシャルインパクト」「持続可能な組織」「コミュニティ」を3つの柱として、それぞれにおいての目標をセットしました。

Three pillars of our strategy: Social impact, Sustainability, and Community.

戦略的ビジョンを支える3つの柱

Three pillars support our strategic vision



ソーシャルインパクトは、自分たちの活動を評価するための重要なファクターです。体系的にソーシャルインパクトを測ることは難しく、そこには、専門知識やデータの不足など多くの課題があります。しかし、私たちは、測定プロセスを開発する努力を続けていきます。「誰と」「どこで」「何を」行うのか等、ソーシャルインパクトに影響する事象も意識しながら各取り組みを進めていきたいと考えています。

Our work should have social impact. However, we recognize not all impact can be measured due to lack of expertise, available data, and funding. Yet, it is important for us to engage in work with impact in mind.

安心・安全な食品管理のためのシステム導入に加え、スタッフの成長を促すために人事評価や人材育成のプロセスと組織体制を開発・強化していきます。NPOには、不確定要素の多い環境下で働く勇気や、自らの貢献で違いを生み出すという強い信念を持つ人が必要です。そのためには既存メンバー全員でビジョンを共有し合うことで理解を深め、また、適材適所の人材募集も進めていきます。

To maintain the viability of our organization we need to have qualified staff, sound funding strategies, and a strong volunteer base. These are fundamental to continually providing services to the community.

私たちのコミュニティへのアプローチはとてもユニークで、自分たちが中心となる世界ではなく、他者を中心としたコミュニティづくりを目指しています。フードセーフティネットは、一団体だけで創ることはできません。資金に加え、社会資本と、行政、企業、他団体等、ステークホルダー全員の協力が重要です。私たちは、コミュニティにおける公共の資産としての役割を果たしていきたいと考えています。

We seek to work with others to create a food safety-net. In this community we are just one entity contributing to the larger goal: A society where people have enough food.

2023年のフォーカス

Focus for 2023

主要な各プログラムにおいても3つの柱を意識しながら、
戦略的ビジョンを支える短期的なフォーカスを元に取り組みを進めていきます。

Our short-term focus in support of our strategic vision.

Harvest Central Kitchen

ハーベストセントラルキッチン

食事での支援が必要な人に、質の高い食事を直接提供し、地域のコミュニティにおける公共資産として、様々なステークホルダー間の関係性を作る・深める媒体となることを目指します。

We provide quality meals to those who in need, and aim to establish good relationships among stakeholders as a public asset.



Harvest Pantry

ハーベストパントリー

新しいスタイルのパントリー「marugohan」の再開に加え、食の支援を必要とする世帯に直接食品を提供する各種プログラムを開発していきます。

We will restart marugohan, an innovative pantry, and develop various programs to provide access directly to those households in need.



Food Bank

フードバンク活動

食品の調達と配布の効率化に引き続き取り組むと同時に、提携団体やパントリー等がオンラインプラットフォームを通じて注文ができるよう注力します。

We will continue to work to increase our efficiency in collecting and distributing food. We will focus on making it possible for agencies to order through an online platform.



Advocacy & Development

政策提言と発展

日本に合ったフードセーフティネットを各ステークホルダーとともに構築することを目指すとともに、自然災害対応も進めていきます。

We aim to establish a food safety-net that matches our culture as well as prepare for natural disasters.



全国にフードセーフティネットを

Food Safety-net Development

2021年12月に「東京2020 10万人プロジェクト」を完了。
東京、埼玉、神奈川において、当初の目標を大きく超える
200の新しいフードパントリーを設置しました。

"Tokyo2020: Food for 100,000" project ended in December 2021 with 200 new food pantries launched in Tokyo, Saitama and Kanagawa, far exceeding our original goal.

富山県の事例

全国で物流ビジネスを展開するトナミ運輸と協働

Collaboration with TONAMI TRANSPORTATION

2022年3月、富山県高岡市に本社を置くトナミ運輸と協働。同市社会福祉協議会や市役所の協力を得て、市内でひとり親支援を実施する母子寡婦福祉会の会員のうち、生活に困窮する未成年の子を持つ60世帯への食品支援を実施しました。トナミ運輸は、2hj埼玉拠点から、高岡市のフードパントリー会場までの食品輸送のため、同社のドライバーと車両を提供しました。

Together, with the cooperation of the local government offices, we provided food support to 60 single-parent households. Tonami transported food to those in need.



山形県の事例

山形県ひとり親家庭福祉会と協働

Collaborating with Single-parent Welfare Association

2022年7月、特定非営利活動法人山形県ひとり親家庭福祉会によるフードパントリーが隔月開催でスタートしました。同法人では前年度、県の事業として食支援に取り組む中でその需要の高さを認識、今年度より自主事業として展開することを決断しました。2hjは、県内約10か所の会場で約140世帯を支援するにあたり、毎回食品を提供しています。県内に多数の配付会場を持つ同法人との連携により、食品が必要な方の手に届く道筋が、山形でも広がっています。

This association started food pantry operations in July 2022, to meet the needs among single-parent households. The opened 10 pantries that support 140 households.



2022年には、11,240個の食品パッケージを、
 また、プログラムが開始された2020年7月から2023年1月までの合計で、
 56,980個のパッケージを提供しました。

We provided 11,240 food packages in 2022.
 Between July, 2020 and January 2023, we delivered 56,980 packages.



長期にわたり全国平均の2倍以上の貧困率に悩まされてきた沖縄の状況は、コロナ禍により、さらに悪化しています。沖縄の言葉で「召し上がれ」を意味する「うさがみそーれ」をその名に持つプロジェクトの特徴は、私たちが、本拠地とする東京台東区で直営する新しい形のマーケット「marugohan」同様の還元型コンセプトを取り入れているところ。そこには、沖縄ならではの「ゆいまーる」という助け合いの精神が生きています。これは支援を受ける側であっても、自分の家から寄付できるものを、何か一つでも持ち寄ろうと声を掛け合うもので、現在では80%以上の人が寄付をしています。私たちは、これは世界中のどこにも見られない画期的な取り組みであると自負しています。

2022年、私たちの活動が及ぼすソーシャルインパクトを測る一助とするため沖縄にてアンケートを実施しました。その結果、私たちの提供する食品のうち52%のみが、各家庭が通常購入している食品であることが解りました。これは、5,000円相当の食品を提供した場合、その世帯には平均で2,500円の経済的利益しかもたらないということを意味します。私たちが各家庭に経済的に実利をもたらす食品を調達するためには、これまでのプッシュ型からプル型調達への移行、その他、食品の品揃えを改善する施策を取っていく必要があります。

沖縄プロジェクト「うさがみそーれー」はパークレイズの寄付により2020年7月に開始。2021年からは休眠預金等を活用して実施されています。

The Okinawa Project “Usagami Soure” was started in July 2020 with a donation from Barclays. In 2021 funds came dormant bank accounts.



沖縄県には、依然として大きなニーズがあります。

私たちは、各ステークホルダーとのパートナーシップのもと活動を続けていきます。

Okinawa still has challenges and we continue to work with stakeholders.

In Okinawa the spirit of mutual support is called, yuimaru. For our November 2020, food distribution we did not have enough food. We shared our situation with recipients and asked them to consider bringing something to share. More than 80% of recipients donated something. The following month this reached nearly 90% and remained that high through February 2022 when we ended our monthly distributions.

In 2022 we conducted monthly surveys to understand the economic impact of the food we supplied to each household. We learned, much to our surprise, that on average only 52% of the food we delivered were items a household would normally purchase. A typical food package valued at ¥5,000 had less than ¥2,500 economic impact on the household. This information is valuable to us in order to create social impact.

Our Focus



私たちは、日本全国における「フードセーフティネット」の構築と、それを支える「フードライフライン」の強化を目指しています。そのために、サービス（付加価値）向上のための「食の安全性」「食品の品揃え」「利用のしやすさ」に注力し、さまざまな取り組みを進めていきます。

Our goal is to create a “food life-line” and “food safety-net” throughout the country. To support those goals we are working to improve our services (the value we provide). Specifically, we want to provide higher quality food, wider variety of food, and ease of use all over Japan.

フードセーフティネットの構築

Food Safety-net

「フードセーフティネット」とは、災害等の有事や経済状態にかかわらず全ての人が、いつでも安心して生活するために十分な食べ物を得ることを可能にする様々な支援の体制・活動の総称です。私たちは、食の支援においても交番や病院などと同じように、公共の施設や制度があるべきだと考えています。

A food safety-net provides access to enough safe, nutritious food for those in need in their own community.

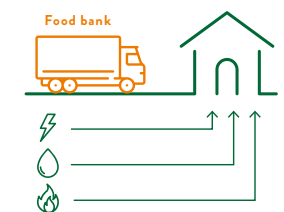


フードライフラインの強化

Food Life-line

水道や電気、ガスといった一般的なライフライン同様に、あらゆる場所へ安心・安全な形で栄養バランスの良い食品を行き渡らせるための基幹を担う仕組みです。食品関連企業の自社配送網を活用したサービス、当団体が運用する「オンライン・マッチングシステム」を介して、食品関連企業の協力による、全国の提携フードバンク9団体への食品提供も行っています。また物流企業からの協力を得た 配送網が一部すでに動き出しています。今後、さらなる拡充に努めていきます。

A vibrant food life-line will efficiently deliver food to those in need and the agencies, NPOs, and faith-based groups that serve them.



Food Safety

食の安全性

トレーサビリティ Traceability

2012年から業界初のQRコードによる寄贈品管理システムを導入。2020年からはクラウド上でデータを管理する事で、寄贈企業からの食品に関する注意事項を含む、必要な情報を支援先団体や施設へ周知しています。

In 2012 we introduced the first QR code donation management system for food banks. In 2020 we began storing all necessary data and information for donors and agencies in the Cloud.



専門性の高いスタッフ Highly Specialized Staff

フードバンク部スタッフ全員が食品衛生責任者講習を受講済みです。ハーベストキッチン部では、スタッフが管理栄養士の国家資格を保持し、保健所の飲食店営業許可に準じた営業許可を取得しています。ボランティアメンバーに対しても知見の共有をすることで、サービスの質向上を目指しています。

Every member of the food bank team and manager of the kitchen and pantry have been certified Food Safety and Handling qualified. In addition, the kitchen manager is a registered dietitian. We aim to improve the quality of service by sharing this knowledge with other staff and volunteers.



衛生管理監査 Food Storage and Hygiene Management Audits

公益財団法人日本フードバンク連盟に加盟する団体の認証要件の1つとして「2年に一度、衛生管理監査を受ける」必要があります。連盟から派遣される外部の食品衛生管理専門家によって実施され、安全・衛生面に関わる90以上のチェック項目があります。

The Alliance of Japan Foodbanks regularly conducts food storage and hygiene audits.



Increasing Variety to Improve Nutrition

食品の品揃え(栄養価の向上)

冷蔵・冷凍品 Refrigerated and Frozen Food

ウォークイン冷蔵庫と冷凍庫を設置。温度データロガーを利用して、クラウド上で24時間温度管理を徹底しています。異常発生時には、全担当者へメールで自動通知がなされ、即時対応が可能な体制をしき、よりバランスの取れた食材提供に欠かさない、冷蔵・冷凍品の品揃え強化を図っていきます。

We installed walk-in coolers and freezers. Our system monitors the temperatures around the clock and data is stored in the Cloud. This equipment has allowed us to improve the nutritional quality of food we can accept and provide.



野菜・果物 Fruits & Vegetables

賞味期限の比較的長い加工食品が主となる食品寄付活動において、野菜・果物は、栄養バランス改善のために欠かせない品目です。現在、既に青果流通企業、輸入商社、生産者等から寄贈を受けていますが、今後はさらなる調達網の拡大に努めていきます。

Fruits and vegetables are indispensable to improve nutritional balance. We have already received many donations and strive to further expand our procurement network.



Ease of Use

利用のしやすさ

引き取り団体予約システム Organization Pick-up Reservation System

支援先団体が予約システムにアクセスし、空き時間を選択して予約を行うことで、各団体の予約に伴う作業負担が軽減されると同時に、待ち時間を少なく、混雑を緩和してスムーズな食品引き取りを可能にします。接触を最低限に抑え、感染拡大防止のためにも同システムの利用を推進していきます。

Organizations can select a time to pick up food to reduce their waiting time and improve our efficiency. We continue to promote the use of this system to prevent COVID19 infection.



オンラインマッチングシステム Online Matching System

2016年に導入された、2hjの支援先団体限定のクローズ型のプラットフォーム。食品は、寄贈元の企業から直送され、全国どこからでも申し込みや受け取りが可能です。今後、新規商品掲載企業や、関東圏以外のエリアにおいても支援団体の使用を促すことで、ネットワーク拡大を目指していきます。

We first introduced this system in 2016. It is a closed-platform for affiliated organizations. Food donors provide information on available donations and is sent directly from the donor company. Donations can be applied for and sent anywhere in the country. We will expand the network by encouraging its use in areas other than Kanto.



国内最大級の規模と頻度でパントリーを運営 2hj Food Pantries the Largest in Scale and Frequency

東京、埼玉、神奈川に合計3ヶ所の団体直営のフードパントリーを設けています。団体本部のある浅草橋パントリーでは、国内最大級の規模で、週4日運営を実施しています※。今後も、感染防止策を徹底しながら、より良いサービスを提供できるよう拡充していきます。※2023年3月末現在

We directly operate three food pantries in Tokyo, Saitama, and Kanagawa. Our main pantry in Tokyo operates four days a week and is the largest in the country*. We continue to implement thorough infection prevention measures and look for ways to improve our services. *As of the end of March, 2023



新しいスタイルのパントリー
A new approach

marugohan まるごはん

marugohanは2022年1月、ショッピングスタイルを再開しました。
marugohan restarted a shopping style which users can pick up from January 2022.

従来のパントリーとは違い、2019年11月にオープンしたmarugohanでは、会員制のもと、利用者が、スーパーマーケットのような快適な環境下で自らが必要な食品を選ぶことができます。加えて、食品を受け取る代わりに社会貢献を実施し、感謝の気持ちをその行動によって社会に還元するというユニークなコンセプトが多くの利用者の好評を得ました。しかし、2020年、コロナ禍によりそのスタイルを一旦休止し、感染予防のため、予め用意した食品パッケージを手渡す形をとっていました。2022年1月からは、引き続き万全な感染防止対策をとりながら、その特徴の一つであるショッピング・スタイルを復活。今後はmarugohanの更なる進化を目指し、様々な施策を検討していきます。

The concept of *ongaeshi* (returning a favor) is behind marugohan. Recipients shop for what they need and pay by giving back to society. Due to the pandemic we had to shift to a drive-thru pantry in April 2020. In January 2022 we began a choice-pantry system with the intent of moving to realizing the full concept of marugohan in the near future.



今後検討している施策 Improvements

完全予約制の徹底
Reservation System

利用者数を管理することで、滞留時間・接触をより確実に低減でき、かつ、数の事前把握により、準備作業の効率化が図れます。ただし、やむを得ない理由で予約無しで来所した場合も、事前に用意した食品パッケージを渡す等の対応を予定しています。
Users are asked to make a reservation in advance. For those without reservations prepared food parcels will be made available.

ポイント制
Point system

世帯人数に応じたポイントが付与されます。また、利用者がより栄養価の高い食品を摂取することを促すために使用されます。
Points are awarded based on household size. They are also used to encourage users to take more nutritional food.

より取り組みやすい社会貢献の提案
Giving Back

ポイントを付与する際に、すぐにでも取り組むことができる社会貢献のアイデアを具体的に提案することで、「どんな社会貢献をしたらいかがかわからない」といった声に対応。他にも、より気軽に社会貢献に取り組んでもらえるよう工夫を重ねていきます。
Create opportunities to make it easier for recipients to give back.

marugohanでは、今後も引き続き、感染拡大防止策を徹底しながら、
利用者の方々に、より安心・安全に、かつ快適な環境下で食品を提供できるよう、改善を続けていきます。
We will continue to provide a clean, safe, and comfortable environment to shop for food.



marugohan
〒111-0053 東京都台東区浅草橋4丁目5-1 水田ビル1F
Mizuta Bldg., 1F, Asakusabashi 4-5-1, Taito-ku, Tokyo, 111-0053 Japan
TEL 03-5822-5371 e-mail marugohan@2hj.org
https://marugohan.jp

運営日時 Open time
毎週木・金・土曜日 / 12:00~17:00 (16:40最終受付)
Thursday, Friday, and Saturday 12:00 - 17:00 (Last Check-in 16:40)
祝祭日、GW、夏季休暇、年末年始を除く
Closed national holidays, Golden Week, August and December holidays

Yashio, Saitama Warehouse 埼玉拠点

2017年に稼働を開始した2hjの基幹物流拠点
Opened in 2017



埼玉拠点は、私たちの基幹物流拠点として2017年1月から稼働を開始しました。10トントラックでの大型納品案件にも対応可能な倉庫内には、4段ラックを備え、他にウォークインタイプの冷凍・冷蔵倉庫も完備しています。稼働日の午前中は主に寄贈品の納入を受け付け、午後は各提携団体への食品の供給を行っています。一人でも多くの食の支援を必要とする人々へ安心・安全な形で食品を提供するため日々、改善を行い、フードセーフティネット構築にむけた様々なアイデアを試行しています。

The warehouse is equipped with 4-tier racks, walk-in freezer, walk-in reefer, forklift, and pallet jack. Able to load and unload 10-ton trucks and 20ft containers.

Yamato, Kanagawa Warehouse 神奈川拠点

ボランティアメンバー中心の運営です。
This warehouse is operated by enthusiastic volunteers



2015年に大和市にオープンした神奈川拠点は、2022年、新たに6か所の地域のフードパントリーと連携を開始し、県内の横浜以南・以西エリアをカバーする拠点となっています。神奈川拠点の大きな特徴は、ボランティアメンバー中心の運営であること。在庫状況の把握から利用する団体の対応までの全てを、ベテランのボランティアメンバーが先頭に立って取り仕切っています。非営利の活動を維持・拡大させていくためにはボランティアメンバーの力が必須です。

The warehouse supported six new regional food pantries in 2022. It supplies food to organizations/groups on weekdays.

Food Donors (五十音順)

食品の寄贈で活動を支えてくださった皆さま（一部） We are very grateful to have these partners help us make our work possible.

Eat Well, Live Well.



味の素株式会社
Ajinomoto Co., Inc.



キッコーマン株式会社
Kikkoman Corporation



ケンコーマヨネーズ株式会社
KENKO Mayonnaise Co., Ltd.



株式会社セブン・イレブン・ジャパン
SEVEN-ELEVEN JAPAN CO.,LTD.



ダノンジャパン株式会社
Danone Japan Co.,Ltd.



株式会社中村屋
NAKAMURAYA CO.,LTD.



日仏貿易株式会社
NICHIFUTSU BOEKI K.K.



日清食品グループ
NISSIN FOODS Group



コープデリ生活協同組合連合会
CO-OP DELI CONSUMERS'
CO-OPERATIVE UNION



株式会社ドール
Dole Japan,Inc.



株式会社ニチレイフーズ
Nichirei Foods Inc.



株式会社 ニッポン
NIPPON CORPORATION



株式会社日本アクセス
NIPPON ACCESS,INC.



日本KFCホールディングス
株式会社
KFC Holdings Japan,Ltd.



ネスレ日本株式会社
Nestle Japan Ltd.



ハーゲンダッツ ジャパン株式会社
Häagen-Dazs Japan, Inc.



ひかり味噌株式会社
HIKARI MISO Co., Ltd.



株式会社プレナス
Plenus Co.,Ltd.



ベル ジャパン株式会社
Bel Japon K.K.



マルハニチロ株式会社
Maruha Nichiro Corporation



山崎製パン株式会社
YAMAZAKI BAKING CO.,LTD.



株式会社ニッスイ
Nissui Corporation



日本ケロッグ合同会社
KELLOGG (JAPAN) G.K.



日本生活協同組合連合会
Japanese Consumers' Co-operative Union



雪印メグミルク株式会社
MEGMILK SNOW BRAND Co., Ltd.



よつ葉乳業株式会社
Yotsuba Milk Products Co.,Ltd.



日本たばこ産業株式会社
Japan Tobacco Inc.



ハウス食品グループ
HOUSE FOODS GROUP INC.



株式会社モスフードサービス
MOS FOOD SERVICES, INC.

株式会社味工房

アリスタ フードソリューションズ ジャパン株式会社
ARYSTA Food Solutions Japan Co.,Ltd

江崎グリコ株式会社
Ezaki Glico Co., Ltd.

大畑 道雄
Ohata Michio

KK企画株式会社
KK Kikaku Co. Ltd

サントリーホールディングス株式会社
Suntory Holdings Limited

株式会社なとり
NATORI CO.,LTD.

日清オイリオグループ株式会社
The Nisshin Oilio Group, Ltd.

株式会社日清製粉ウェルナ
Nisshin Seifun Welna Inc.

株式会社人形町今半
NINGYOTYO IMAHAN

丸美屋食品工業株式会社
MARUMIYA SHOKUJIN KOGYO CO., LTD

ヤマサ醤油株式会社
YAMASA CORPORATION

Emergency Food Supplies

防災食品ドナー



株式会社大塚商会
OTSUKA CORPORATION



キューピー株式会社
Kewpie Corporation.



コカ・コーラ ボトラーズジャパン
株式会社
Coca-Cola Bottlers Japan Inc.



コストコホールセールジャパン
株式会社
Costco Wholesale Japan Ltd.



JA全農
ZEN-NOH



株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
NTT DATA Corporation



東京ガス株式会社
Tokyo Gas Co., Ltd.

Financial Donors

寄付で活動を支えてくださった皆さま(一部) We are very grateful to have these partners help us make our work possible.

Diamond Partner ¥25,000,000以上

NU SKIN®

ニュースキン ジャパン 株式会社
Nu Skin Japan Co., Ltd.

Gold Partner ¥8,000,000 ~ ¥10,000,000



OXO



Goodman Japan Limited

Silver Partner ¥5,000,000 ~ ¥7,500,000



株式会社西友
Seiyu Co., Ltd.



3M



コルテバ・アグリサイエンス
Corteva Agriscience

Bronze Partner ¥2,000,000 ~ ¥3,500,000

Bloomberg

ブルームバーグ エル・ピー
Bloomberg L.P.



あおぞら銀行

株式会社あおぞら銀行
Aozora Bank, Ltd.



日本KFCホールディングス株式会社
KFC Holdings Japan, Ltd.



三井住友カード株式会社
Sumitomo Mitsui Card Company, Limited

連合 愛のキャンパ

Partner ¥1,000,000 ~ ¥2,000,000



パークレイズ
Barclays PLC



アプライド マテリアルズ
Applied Materials, Inc.



株式会社大林組
OBAYASHI CORPORATION



アー・ディー・エム・ジャパン
株式会社
Archer-Daniels-Midland Company



株式会社
ベーカリーシステム研究所
Bakery System Expertise

J.P.Morgan

J.P.モルガン
J.P. Morgan



長谷川香料株式会社
T. HASEGAWA CO., LTD.



リコー社会貢献クラブ・FreeWill
"FreeWill", Social Contribution Club of
Ricoh Group in Japan.

protiviti®
Global Business Consulting

プロティビティ LLC
PROTIVITI LLC

渡辺パイプ株式会社

渡辺パイプ株式会社
Watanabe Pipe co., Ltd.



株式会社高速
KOHSEI CORPORATION



日本テキサス・インスツルメンツ
合同会社
Texas Instruments Japan Limited

Donors ¥500,000 ~ 1,000,000

株式会社Casa
Casa, Inc.
マスワークス
MathWorks

Harbourvest Partners LLC
株式会社キユーソー流通システム
K.R.S. Corporation

資生堂プロフェッショナル株式会社
Shiseido Professional Inc.
森永乳業株式会社
MORINAGA MILK INDUSTRY CO., LTD.

FERRERO
株式会社セブン&アイ・フードシステムズ
Seven & i Food Systems Co., Ltd.

ユーロモニターインターナショナルリミテッド
Euromonitor International Limited

Individuals

2022年は、多数の個人の方から総額44,893,723円の寄付を頂きました。皆様のご支援に感謝いたします。
In 2022, we received donations from many individuals totaling 44,893,723 yen. We thank everyone for their support.

Logistics Donors (五十音順)

物流支援で活動を支えてくださった皆さま (一部) We are very grateful to have these partners help us make our work possible.



アサヒロジスティクス株式会社
AsahiLogistics CO.,Ltd



SBSホールディングス株式会社
SBS Holdings, Inc.



キャリアネット株式会社
CARRY-NET CO.,LTD.



鈴江コーポレーション株式会社
SUZUE CORPORATION



株式会社ストレート
straight



田中商事株式会社
TANAKA CO.,LTD.



株式会社 日本アクセス
NIPPON ACCESS, INC.



日本パレットレンタル株式会社
Japan Pallet Rental Corporation (JPR)



ビー・エム・ダブリュ株式会社
BMW Japan Corp.

In-kind Donors (五十音順)

様々な形で活動を支えてくださった皆さま (一部) We are very grateful to have these partners help us make our work possible.



株式会社 高速
KOHOKU CORPORATION



株式会社 バリュートックス
VALUE BOOKS

私たち、2hjは、公共の資産です

We as 2hj are a public asset in Japan

私たちが目指すべき姿は：

Our aspirations that drive us

- 1 すべての人に食べ物を提供するため、私たちの価値観に基づき判断し行動します
We strive to realize our first founding principle, “Food for all people” as it reflects our core values.
- 2 多様性を受け入れ、それを強みとします
We encourage diversity because it makes us stronger.
- 3 全てのステークホルダーをパートナーとして、平等な立場で尊重します
We treat all stakeholders as equals.
- 4 それぞれの役割を最後まで責任をもって全うします
We take responsibility for the work we carry out.
- 5 より良い結果のために、積極的にチャレンジします
We pursue better results through challenging ourselves.
- 6 個人として、組織として、向上するため努力します
We continually seek to learn and grow both individually and as an organization.
- 7 日々、楽しんで仕事をします
We take joy each day in our work.



セカンドハーベスト・アジアはアジアの国々において
フードバンク活動を推進しています。

Second Harvest Asia promotes food banking in Asia and beyond.



日本フードバンク連盟

Alliance of Japan Foodbanks

認証団体

セカンドハーベスト・ジャパンは

日本フードバンク連盟の認証団体です。

We are a certified member of the Alliance of Japan Foodbanks.



セカンドハーベスト・ジャパンは、公益財団法人
日本フードバンク連盟による、「衛生管理監
査」を定期的に受けています。

The Alliance of Japan Foodbanks regularly conducts
food storage and hygiene management audits.

<https://foodbanking.or.jp/>



セカンドハーベスト・ジャパン

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-5-1 水田ビル1F

Second Harvest Japan

Mizuta Bldg., 1F, Asakusabashi 4-5-1, Taito-ku,
Tokyo, Japan 111-0053

TEL: 03-5822-5371 FAX: 03-5822-5372

2hj

search

<https://2hj.org>



2ndharvestjapan



@2ndharvestjapan

10万人プロジェクト

search

<https://2hj.org/100000pj>

marugohan

search

<https://marugohan.jp>

セカンドハーベスト・ジャパンは、平成30年4月11日付で
認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)としての認定を受けました。